

資料4

◎取り組み目標「医療・介護・福祉の連携の推進」

(1)認知症の早期発見・早期対応に向けた在宅ケアの連携の仕組みづくり

	平成29年度の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
土佐長岡郡 医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護の連携シートの運用に協力を行った。 ・作成された認知症ケアパスの周知と協力依頼を行った。 ・南国市の認知症初期集中支援推進事業への協力を主導した。 ・認知症ケアにおいて多職種が相互の役割・機能を理解するための勉強会を実施した。 ・医師会員に向けて認知症対応力向上研修や認知症サポート医養成研修の受講促進を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援推進事業を軌道に乗せた。 ・認知症ケアパスの作成と周知に協力した。 ・認知症ケアにおける多職種の勉強会が定着した。 ・研修会を通じてオレンジドクター、認知症サポート医の増加に貢献した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援チーム、サポート医とかかりつけ医との連携強化に向けた取り組みを行う。 ・認知症ケアパスの普及と体制づくりに取り組む。 ・生活支援事業における三市の取り組みに協力する。
香美郡医師会	<p>毎月の在宅医療・介護連携推進事業を開催し、多くの多職種の参加が得られている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種の関係する勉強会を重ねる事で、相互の信頼が育まれてきた。 ・家族との連携も保つ方向に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅治療に向け、患者や家族の啓蒙活動を行なう。 ・担当のケアマネ名と施設名の記載の徹底。 ・勉強会や症例検討会を今後も続行する。
土長南国 歯科医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医師会会員に事例検討会への参加を促した。 ・歯科医師会会員に対して多職種との連携をはかり、依頼があれば、在宅診療も積極的に行うよう指示した。 	<p>歯科医師会が主催する在宅歯科連携室の周知も少しずつ上がっており、在宅診療の件数も少しずつ増加しています。</p>	<p>今後も引き続き認知症の早期発見や在宅の口腔ケアを行う機会を増やすよう、歯科医師会員に伝え、多職種との連携を図っていきます。</p>
香美・香南 歯科医師会	<p>在宅歯科連携室の周知をした。</p>	<p>在宅医療・介護連携推進事業地域連携勉強会には歯科医師も講師として参加した。(前任者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅歯科連携室の周知 ・多職種連携の勉強会への参加
県薬剤師会 香長土支部	<ul style="list-style-type: none"> ・医師会主催の多職種合同研修会への参加 ・高知家お薬プロジェクトの推進として、今年度から嶺北地域、高知市も対象地域となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師会主催の多職種合同研修会への参加 ・高知家お薬プロジェクトの推進として、今年度から嶺北地域、高知市も対象地域となった。但し、多職種への周知が不十分な面もあり、残薬報告書の積極的な活用に繋がられていないことが今後の課題といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師会主催の多職種合同研修会への参加 ・高知家お薬プロジェクトの推進として、来年度からは全県下へ対象地域を拡大予定

	平成29年度の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
県看護協会 東部2地区	平成29年10月21日(土)14:00~17:00 高知県看護協会東部Ⅱ地区支部研修会開催 テーマ:「認知症ケア実践編」 東部Ⅱ地区支部内外看護職員51名参加	東部地区の看護職員の認知症ケア対応能力の向上を目指して、平成27年から平成29年までの3か年で、認知症ケア基礎編、応用編、実践編の3段階で認知症ケアに関する研修を開催した。 平成29年度の実践編研修では、複数施設の参加者が意見交換を行い、情報共有の良い機会になった。 転院や転所の場合に提供するサマリー(情報要約)の情報をケアの継続に活用するためには、施設間の看護職員の情報提供内容の整理、使用する言語の統一などが課題である。	
県訪問看護 ステーション 連絡協議会 東部ブロック会	かかりつけ医だけではBPSDをコントロールできず、かかりつけ医を通して専門病院を受診し、BPSDが落ちついたケースがありました。	認知症の症状がある利用者様に対し、家族、主治医、ケアマネジャー等他職種で連携をとりながら、その人らしい生活を送れるよう支援をしてきました。(デイの利用、家族を巻き込んだ薬管理、専門病院受診等)	かかりつけ医のみでは対応が難しいケースの場合、適切な医療機関につなげられるよう、訪問看護師も知識を深めていきたい。
中央東圏域 栄養士会	・6月29日に訪問介護員対象の研修会(調理実習)を行った。 ・スキルアップのための研修会を行った。(7月28日)	・1年度に1回の訪問介護員を対象とする調理実習を伴う研修会を実施した。 ・1年度に2回のスキルアップや多職種連携のための研修会を実施した。 (成果) ・訪問介護員対象の研修会(調理実習)は定着、参加者からの評価も良好。 ・在宅ケアなどに向けた研修会の実施によりスキルが向上し、連携の手掛かりとなった。 (課題) ・多職種による勉強会への参加 ・連携への仕組みづくり	・訪問介護員対象の研修会の継続(ニーズに沿って実施) ・スキルアップ、在宅ケアに向けた研修会を年2回実施する ・多職種による勉強会への参加
南国市 社会福祉協議会	新たな集いの場所や地域に専門職と共に地域訪問を行い、個別ケース等を他機関につなぎました。	あったかふれあいセンターを中心に早期発見、早期発見のツールづくりとして集いの場やサテライトの立ち上げ支援を行ってきました。定期的な訪問を重ねることで顔の見える関係づくりにもなりました。しかし、必要な地域では地域性もあり、仕組みができていくともありますので、必要に応じて意図的な仕掛けを行っていくことも検討していきます。	新たなあったかふれあいセンターの拠点を中心に早期発見、早期対応の仕組みづくりを引き続き行っていきます。

	平成29年度の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
南国市民生委員 児童委員 連絡協議会	いきいき体操などにて早期発見 包括支援センターへの連絡 家族に相談		早期発見が第一です。
中央東ブロック 介護支援専門員 連絡協議会	地域包括ケアへの実現に向けた介護支援専門員の役割を認識する研修会を開き地域との連携役割を認識した。 多職種連携分野で県立大学社会福祉学部准教授西内章先生の講演にて専門者の役割と共通認識について理解した。 障害支援専門員と介護支援専門員がお互いの制度の理解や知識を深めた。	医療・介護連携システムに向けて話し合いが持たれながら現在に至るが情報交換の状況から見ても年を重ねる毎に連携も深まりつつある。情報提供の統一化においては問題が残っているが全職種が必要とする提供書を目指していく。	介護支援専門員は、細かい技術の一つ一つ完璧に実施できることも、然ることながら、総合的な力を身につけ利用者や家族から信頼される人材に成長することが求められることから、介護支援専門員の最終目標(アウトカム)を示していく。
南国市・ 南国市地域包括 支援センター	認知症の早期発見、早期対応のために毎月2回認知症初期集中支援チーム委員会を開催し、事例の検討を行い、適切な医療、介護に繋げました。	認知症初期集中支援チームを設置し定期的な検討会を実施してきました。今後は、かかりつけ医との情報共有を行うための連携を進める必要があります。また、認知症ケアパスを作成し、全世帯に配布しました。	認知症初期集中支援チームの活動を周知するとともに、地域の関係医療機関との連携を深めます。
香南市	①認知症サポート医をチーム医として、認知症初期集中支援チームを設置 ②早期発見につなぐツールとして(DASC)を活用 ③かかりつけ医との連携 ・双方向の連絡票活用の継続 ・「ケアマネタイム」や「医療と介護の連携のための管内医療情報」の活用 ④多職種連携のための勉強会、事例検討会への参加	・認知症サポート医との連携により認知症初期集中支援チームを設置し、認知症の早期発見・早期対応に向けた体制を構築することができた。 ・今後、チーム医からかかりつけ医と専門医への連携体制の構築が課題となっている。また、チーム員が包括支援センターの職員と兼務しているメリットもあるが早期発見のための相談対応体制の検討が必要となっている。	・認知症サポート医とかかりつけ医、専門医の連携に向け取り組む。 ・早期発見のための地域住民への普及啓発に取り組む。

	平成29年度の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
香美市・香美市社会福祉協議会	<p>認知症支援推進協議会事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との勉強会の実施(年1回) ・3市の医療介護連携の研修参加(毎回) ・認知症勉強会の実施 ・認知症初期集中支援推進事業の実施 ・よりそい支援事業の実施 ・よりそ支援事業の事例検討研修会の開催 	<p>(香美市は地域包括支援センター設置以来ずっと香美市社会福祉協議会に事業委託を行ないながら種々の事業を行なってきたことが取り組みの大きな特徴である。認知症支援事業としては平成22年度からのあつたかふれあいセンター事業を活用した中重度の認知症個別支援が出発点となっているが、平成24年度より、個別支援から地域づくりに軸足を移し、現在に至っている。)</p> <p>認知症は住民にも関心が高く、正しい知識の普及と地域の見守りを呼びかける啓発による地域づくりを目指し、継続的な取り組みのため認知症支援推進協議会を立ち上げ、関係機関との連携にも取り組んできた。</p> <p>市民に向けては認知症を正しく知ることで、住民が関心を持って自身で気づいたりお互いを見守ることができることを目標に啓発事業(出前教室や講演会、映画上映会など)を行い、気軽に相談してもらえる場としてかかりつけ医やかかりつけ薬局、社会福祉協議会や地域包括支援センター等の紹介を行ってきた。</p> <p>啓発のターゲット(MCIレベル、学生や壮年期層等)を広げることなど課題もあるが引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>関係機関とは平成25年度より研修会や情報誌の配布をとおして情報共有や顔の見える関係づくりにつとめてきており、平成27年度よりは在宅医療・介護連携推進事業においても研修会への参加や入院連絡票の利用などが進んでいる。</p> <p>認知症支援推進協議会は香美市医師団、同仁病院、市内の薬局、歯科、サービス事業所や社協、介護者の会の代表の方などに協力いただいている。初期集中支援チーム検討委員会も兼ねており、認知症支援の取り組みについて検討、情報共有、協力等をいただく中で、少しずつ香美市としての取り組みの形ができてきているように思う。</p> <p>まだまだ市内全ての機関と双方向のつながりができていないと思うが、今後も継続して取り組みを行なっていきたいと考えている。</p>	<p>認知症の早期発見・早期対応ができる体制、支援者間のつながり、専門的支援が得られる体制、関係者が協力して認知症支援に取り組める体制づくりをすすめ、認知症があっても今のところ暮らしていけるよう取り組みを継続する。取り組みのすすめ方は今後も同様であるが、来年度は認知症ケアパスを更新する予定であり、それを利用した啓発や介護者の会陽まわりの集いが開催予定の認知症カフェ、事例検討会を取り入れた市内事業所との勉強会なども検討している。</p>

◎取り組み目標「医療・介護・福祉の連携の推進」

(2)在宅ケアを支えるための入院・入所施設との連携の仕組みづくり

	平成29年度の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
土佐長岡郡 医師会	<ul style="list-style-type: none"> 三市医療・介護連携推進事業において当該地域の医療機関の入退院のルール作りに協力した。 レスパイトケア入院、急性増悪時の入院、認知症のBPSD治療目的での入院ができる医療機関への協力依頼を行った。 在宅医療に関する事例検討会、勉強会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 三市医療・介護連携推進事業におけるコーディネーターを選任し当該地域の医療機関の入退院のルールの基盤作りを行った。 基幹病院に対しレスパイトケア入院、急性増悪時の入院の協力依頼を行った。 在宅医療に関する事例検討会、勉強会が定着した。 	<ul style="list-style-type: none"> 三市医療・介護連携推進事業において当該地域の医療機関の入退院のルールを確立する。 レスパイトケア入院、急性増悪時の入院、BPSD治療目的の入院が可能な医療機関を明確にしパスとして運用する。
香美郡医師会	入院・入所の連携はまだまだ十分には行なわれていない。	<ul style="list-style-type: none"> 急性増悪時の入院に関しては、継続して対応を重ねてきた。 多職種間の合同の勉強会は回を重ねる事で連携が密となってきた。 	認知症に関する勉強会を継続する事で、更に相互の信頼を育てる。
香美・香南 歯科医師会	摂食えん下障害の勉強会に出席した。	歯科医師会主催の勉強会や口のリハビリテーション研究会主催の勉強会に参加した。	<ul style="list-style-type: none"> 協力歯科医として入院・入所施設への歯科訪問診療、口腔ケアを実施するとともに、医科等他職種との連携 歯の治療や義歯調整の全身への効果を啓発
県薬剤師会 香長土支部	<ul style="list-style-type: none"> 医師会主催の多職種合同研修会への参加 高知家お薬プロジェクトの推進 地域の基幹病院薬剤部が主催する研修会への参加(高知大学病院、JA高知病院) 	<ul style="list-style-type: none"> 医師会主催の多職種合同研修会への参加 高知家お薬プロジェクトの推進として、今年度から嶺北地域、高知市も対象地域となった。但し、多職種への周知が不十分な面もあり、残薬報告書の積極的な活用につなげられていないことが今後の課題といえる。 地域の基幹病院薬剤部が主催する研修会への参加(高知大学病院、JA高知病院) 	<ul style="list-style-type: none"> 医師会主催の多職種合同研修会への参加 高知家お薬プロジェクトの推進として、来年度からは全県下へ対象地域を拡大予定 地域の基幹病院薬剤部が主催する研修会への参加(高知大学病院、JA高知病院)
県看護協会 東部2地区			平成30年度以降は、医療・介護・在宅サービス機関や施設において、ケアが途切れぬように、看護職員間の連携をどの様に行うかをテーマに、事例検討会を開催する予定である。
県訪問看護 ステーション 連絡協議会 東部ブロック会	在宅療養を継続していくために、介護者負担軽減目的でレスパイト入院・入所を希望される事が多くなり、橋渡しをしてきました。	入院・入所時には在宅での情報提供をし、退院前カンファレンスにも参加して、環境がかわっても安心して過ごせるよう連携してきました。	時々入院・入所しても、お家に帰ってきて、その人らしい生活を送れるよう、情報収集し、橋渡ししていきたい。

	平成29年度の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
中央東ブロック 介護支援専門員 連絡協議会	連携において情報の共有ツールは構築できてきたがいち早く情報を伝達する取り組みにおいてICTシステムを活用して行くなどの検討をした。 医療連携の手始めとして顔の見える取り組みとして担当利用者のケアマネは私ですと健康保険証の保管場所に名刺を挟む事で担当ケアマネが分かるようにした。 29/12/12日医師・看護師・地域包括とともに医療連携ツール策定に向けた会議に参加した。	入退院における病院の窓口との調整もスムーズに動き出し関係性が取れやすくなった背景には医療・介護の連携システムが意識付けされてきたことが大きな成果に繋がっており今後はカンファレンスなどへの出席率も増やして行きたい所存である。	今後、慢性的な疾患の療養が施設から在宅での介護へと移行するなか、家族や医療・介護関係者など支える側の負担が増加していきます。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、医療や介護などの限られた社会資源を効果的かつ効率的に提供するための仕組みづくりが必要になります。そこで『地域包括ケアシステム』に向けた取り組みを実施する。
南国市・ 南国市地域包括 支援センター	多職種が参加する在宅医療・介護連携研修会に参加し、相互の役割、機能を理解し、連携を深めました。	医療機関から地域包括支援センターへ要請のあった退院前カンファレンスに参加してきました。また、退院にあたっての家屋調査、福祉用具の調整等、在宅ケアのための連携を図りました。	医療と介護の連携ツールを活用した情報共有を推進します。また、状態の変化に応じて、かかりつけ医との迅速な連携を推進します。
香南市	①かかりつけ医との連携 ・双方向の連絡票活用の継続 ・「ケアマネタイム」や「医療と介護の連携のための管内 医療情報」の更新と活用 ②在宅医療・介護連携推進事業を医師会委託 ・入退院時のルールづくりのため手引きの作成 ・退院前カンファレンスに参加 ・多職種との連携の勉強会への参加継続 ・主治医への名刺提示のためのお薬手帳ケース作成 ・医療・看護、介護連携のためのコーディネーターの配置	・医師会への事業委託により、在宅医療と介護連携の推進は図れており、定期的な勉強会開催の定着、主治医との連携ツール・医療機関との入退院時連携ツールの作成などに取組むことができました。また、コーディネーターを配置し医療と看護・介護の相談機能に関する人材の確保ができた。 ・今後、コーディネーターの機能と相談対応体制のしくみや地域住民への普及啓発が課題である。	・コーディネーターによる医療看護・介護の連携に関する相談対応のしくみづくりに取組む。 ・地域住民への普及啓発に取組む。 ・連携ツールの評価と活用効果の検証
香美市・香美市社 会福祉協議会	・3市で委託する医療介護連携事業の研修への関係機関等の参加 ・ケース検討、退院前カンファレンス等の実施、参加	「(1)認知症の早期発見・早期対応に向けた在宅ケアの連携の仕組みづくり」に記載した内容と同じ	「(1)認知症の早期発見・早期対応に向けた在宅ケアの連携の仕組みづくり」に記載した内容と同じ

●取り組み目標「地域の見守りや支え合いの推進」

(1) 地域で認知症を理解した人が増え、支える仕組みづくり

	平成29年度の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
土佐長岡郡 医師会	認知症サポート医や専門医による住民に向けた講演会を行った。	認知症啓発についての講演活動により住民の意識が向上した。	三市の住民啓発事業に協力する。
香美郡医師会	平成29年12月には、在宅・医療連携推進事業の一環として、住民も参加の認知症講演会を開催した。	認知症に対する意識が浸透し、発見や対応がスムーズになってきた。	・住民への啓発活動を推進していく。 ・中高生を対象とした勉強会も企画する。
香美・香南 歯科医師会		咀嚼能力改善による認知症の予防について広く啓蒙した。	・認知症予防のための咀嚼の重要性を啓発 ・認知症に関する研修会への参加
県薬剤師会 香長土支部	認知症サポーターの養成	認知症サポーターの養成	認知症サポーターの養成
県訪問看護 ステーション 連絡協議会 東部ブロック会		訪問看護師として、地域に出ることはなかったが、利用者の御家族に認知症の病識や対応方法等をお話して、協力してもらいました。	
南国市 社会福祉協議会	・小学校に福祉教育の視点で認知症の理解、啓発で訪問しました。 ・SNSを通じて社協活動と関連付けて情報発信を行いました。 ・認知症家族の会が中心となって、認知症カフェの運営を引き続き行いました。	社協の視点で福祉教育というツールを活かし認知症理解を推進してきました。今後専門職だけで推進していくだけでなく、サポーターが推進していくことも本当の理解につながると考えるので、伝達の新たな方法も検討していきます。	・地域向け、学校向けに福祉教育の視点で幅広く情報啓発を行います。 ・社協活動の啓発(社協ホームページ、フェイスブックでの情報発信) ・認知症家族の会が中心となって、認知症カフェの運営を引き続き行います。家族会活動の普及啓発(地域包括支援センター連携)
香南市 社会福祉協議会	・社協事業の周知(社協情報・HPへの掲載、民生委員や地域の集まりでの紹介等) ・地域の見守りネットワークづくり等、地域の現状にあわせた方法の検討 ・地域の課題整理、解決方法の検討 ・明日葉会会員同士の介護相談や認知症に関する学習会開催による認知症および家族会活動の普及啓発 ・お達者教室(介護予防事業)での認知症よりそいかるた使用等による認知症に関する普及啓発	明日葉会の公開講座や学校・地域住民の集まりの場における認知症サポーター養成講座の開催等により、認知症に関する正しい知識の習得および理解が深まったと思われる。 さらなる理解促進のため、今後も各専門機関等との連携を図り、左記方法等により取り組みの継続が必要である。	左記取り組みの継続

	平成29年度の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
南国市民生委員 児童委員 連絡協議会	認知症の方の見守り	認知症について学ぶ	正しく理解し本人やその家族を支える取り組み
中央東ブロック 介護支援専門員 連絡協議会	認知症カフェに介護支援専門員が参加し在宅での認知症利用者の生活における悩みや支援などを聞くことができる。 地域住民と模擬訓練を実施することで地域住民と合同で認知症の理解を深めた。	認知症に対する研修の増加や認知症に対する関心が増えたことにより地域でも認知症のキーワードを耳にすることが近年増えてきている状況である。今後は認知症の患者にどのように、寄り添って行くか地域で見守って行くかが課題となる。	認知症ケアパスの活用により認知症とは？を無くす地域づくりに介護支援専門員として取り組みを検討していく。 認知症専門医との連携により情報共有力を高めていく。(家族、サービス事業所、近隣等)
南国市・ 南国市地域包括 支援センター	認知症サポーター養成講座は、大人を中心に養成してきましたが、今年度は小学校でも2か所開催し、サポーターを子供にも拡大することができました。	認知症サポーター養成講座の実施や認知症家族会への活動支援、認知症カフェの定期的な開催等によって、認知症を理解した人や支えるための仕組みが少しずつ増えています。	認知症サポーター養成講座を大人から子供までを対象に定期的に開催します。また、認知症カフェの開催場所を拡大し、認知症について理解を深める機会を拡充します。
香南市	①認知症サポーター養成講座の継続実施、小学校のPTA行事における講座の開催 (小・中・高等学校児童・生徒、小学校のPTA行事における保護者と児童への講座開催、スーパーの店員、市役所新規採用職員や嘱託臨時職員を対象に実施) ②家族会が開催する一般市民向け講演会の開催支援 ③認知症高齢者の声かけ・見守り訓練の実施 ④認知症カフェの開催(直営・民間事業所への委託)	・認知症サポーター養成講座は、学童期から一般市民、スーパーなどの高齢者に関わる職域で開催の継続ができているが、キャラバンメイトの固定化が課題。 ・地域の事業所から認知症への普及啓発活動に向けた取組みや参画も固定化しており、介護サービス事業所と協働し、認知症の正しい理解に向けた取組みが課題。	・認知症カフェの未実施地域での開催に向けた検討、声かけ見守り訓練の継続など、地域住民や各団体、介護サービス事業所とともに地域で認知症高齢者を支えるしくみづくりに取り組む。 ・若年性認知症の方とその家族支援についての検討
香美市・香美市社会福祉協議会	・地域の集い等で健康教育、認知症サポーター養成講座、出前認知症カフェの実施 ・よりそい支援事業の実施 ・にこまるカフェ(MCIの方のミニデイサービス)の実施 ・陽まわりの集いでの認知症カフェ立ち上げの話合い	「(1)認知症の早期発見・早期対応に向けた在宅ケアの連携の仕組みづくり」に記載した内容と同じ	「(1)認知症の早期発見・早期対応に向けた在宅ケアの連携の仕組みづくり」に記載した内容と同じ

●取り組み目標「地域の見守りや支え合いの推進」

(2)認知症等の要援護者を支援する行政、専門職と住民の連携

	平成29年度の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
土佐長岡郡 医師会	<ul style="list-style-type: none"> 行政、各専門職、住民の要請により認知症に関する講演活動、事例検討会、各種会議での助言を行った。 認知症ケアパスの広報への協力を行った。 	講演活動、事例検討会、各種会議での助言により住民、行政、専門職との連携がやや進んだ。	<ul style="list-style-type: none"> 認知症ケアパスにおける行政、各専門職、住民の役割を明確にし包括的な支援体制づくりに協力する。 生活支援事業における三市の取り組みに協力する。
香美郡医師会	<ul style="list-style-type: none"> 包括支援センターを中心として、小グループの予防活動および事例を解決してきた。 認知症支援推進協議会の開催 	幅広い認知症支援が行なわれるようになってきた。	<ul style="list-style-type: none"> 各種専門分野の講演活動や事例検討会を行なう。 認知症初期の対応を進める。
香美・香南 歯科医師会			<ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャー等の求めに応じ情報提供 行政主催の検討会等への参加
県薬剤師会 香長土支部	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議へのアドバイザーとしての参加(南国市・香南市・香美市) 地域の健康まつりへの参加【香南市、南国市】 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議へのアドバイザーとしての参加(南国市・香南市・香美市)を通して、行政や専門職の取り組みや考え方を知り、また薬剤師の考えを多職種に伝えることができる等、よりよい連携が図れるようになった。 地域の健康まつりへの参加【香美市、香南市、南国市】 	各地域におけるふれあいセンター等を活用したお薬教室等の実施
県訪問看護 ステーション 連絡協議会 東部ブロック会		在宅で独居で認知症の方に認知症サポーターを利用してみたいと考えた事がありますが、情報収集していないため、利用していません。	(訪問看護師としては「医療・介護・福祉の連携の推進」がメインで左記についても、ケアマネジャーに任せているため省略させていただきます。)
南国市 社会福祉協議会	社会福祉法人の地域貢献や生活支援体制整備事業を通して話し合っきっかけづくりを行ったので、今後、社会資源の洗い出しを行い、地域で支え合える連携体制を検討していきます。	民協研修会等で認知症に関する情報発信や情報交換等も行ってきて、一定の理解と啓発になりました。負担の偏りを無くすためにも新たな支援者となり得る方の発掘を目指します。	一定の方への負担を軽減する意味でも行政、専門職、住民が連携できる仕組みづくりを生活支援体制整備事業と関連付けて行っていきます。

	平成29年度の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
香南市 社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・社協地域支援員等の訪問活動による地域情報収集および関係機関等との情報の共有 ・民協定例会等において認知症に関する学習会や情報交換の実施 ・明日葉会での認知症に関する学習会開催による認知症および家族会活動の普及啓発 	必要時、行政や民生委員等関係機関との情報共有・連携により、対象者の日常生活に対する見守り体制を図ることができたと思われる。 効果的に見守りやサービスのつながりができるよう定期的な情報共有が今後も必要である。	左記取り組みの継続
南国市民生委員 児童委員 連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方との接し方 ・配偶者との傾聴 	家族を支える	認知症は地域ぐるみで見守っていかなければならない。
中央東ブロック 介護支援専門員 連絡協議会	地域ケア会議により認知症の方に対して専門職を交えた検討会を行い地域の社会資源を利用する計画作成に取り組んだ。	介護支援専門員が作成する計画書においても地域の社会資源を利用した認知症予防への取り組みなど具体的な案が登載されてきているが今後は地域住民参加型の計画書の作成など大きな目標となるものが必要ではないかと考えている。	介護支援専門員としての役割を果たすためには、多職種との連携や地域住民へ助言・指導や地域での活動等の実務を通じて、介護支援専門員として必要な知識・技術等を高めていく。
南国市・ 南国市地域包括 支援センター	地域ケア会議等で検討された認知症の事例の中で、地域の支援が必要な場合は、民生委員やいきいきサークルに繋ぎ、認知症の方が地域で生活を継続できるような支援を行いました。	南国市版認知症ケアパスを作成し、全世帯に配布しました。認知症の状態に応じて、適切な医療、介護サービスが利用できるよう、住民にケアパスを活用していただくための啓発が必要です。	地域包括支援センターは医療、介護の専門職と地域住民とのパイプ役機能を高め、認知症の方が住み慣れた地域で暮らし続けることができるような体制を強化します。
香南市	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ケア会議の継続 ②認知症初期集中支援チームの設置と普及啓発 ③認知症カフェへケアマネジャーが参加し相談対応や助言を行う。 	地域ケア会議や認知症初期集中支援チームでの検討により、専門職の専門性への理解や医療連携の体制は整備されてきているが、地域の医療・介護を含めた地域課題の把握や社会資源などの施策化に向けた取り組みが課題。	ケアマネジャーや介護サービス事業所と協働し、民生委員や高齢者クラブなどの各種団体、地域の集まりなどの場での認知症普及啓発の充実に取り組み、専門職の住民連携に取り組む。
香美市	啓発事業の実施	「(1)認知症の早期発見・早期対応に向けた在宅ケアの連携の仕組みづくり」に記載した内容と同じ	「(1)認知症の早期発見・早期対応に向けた在宅ケアの連携の仕組みづくり」に記載した内容と同じ